

# カンボジア低地農村の 稲作の変容（1）

比較農業技術研究会／比較農村社会論  
20170425

## 比較農業技術研究会

「東南アジア大陸部稲作圏における農業近代化以降における技術展開の国際比較」

農業技術は、植物生態、土地環境のみならず、経済、食事、民族文化、手間替えなどの社会システムや家屋の造りなども密接に関係している

農業近代化とは？

「緑の革命」：1940～60年代を中心に行われた高収量品種の導入や化学肥料の大量投入による穀物の生産性を向上させる技術と取り組み

## 研究会の「仮定」

国家が農業におくプライオリティの低下／産業構造の変化

「緑の革命」など近代農業技術の導入による食糧増産の目標はすでに各地で達成された

その後の新しい変化：農民の自主性の解放／新しい技術の定着／生活様式の変化 → 地域の農業は、新しい段階に入り、従来にない新しい農業形態が出現しているのではないか？伝統的農業技術への回帰もそのひとつ？

## 本日の発表

これまでのカンボジア農村での調査は、技術からではなく、生業活動全般または社会からの分析が主だった

農業技術の変化に関する今後の調査に向けてのアドバイスがほしい。そこから生業と社会の別の側面が見えてくるはず

内容 => 2つの地域、2つの時点（変化を考える）

復興期の状況：コンポントム州コンポンスヴァーイ郡サンコー区の調査（2000～2001年）<=今日の発表

近年の状況：ポーサット州バカーン郡の調査（2013～2016年）



Lake: Fishery and trade by Vietnamese, Khmer, Cham



Lowland: Rice-growing and farming by Khmer Peasant

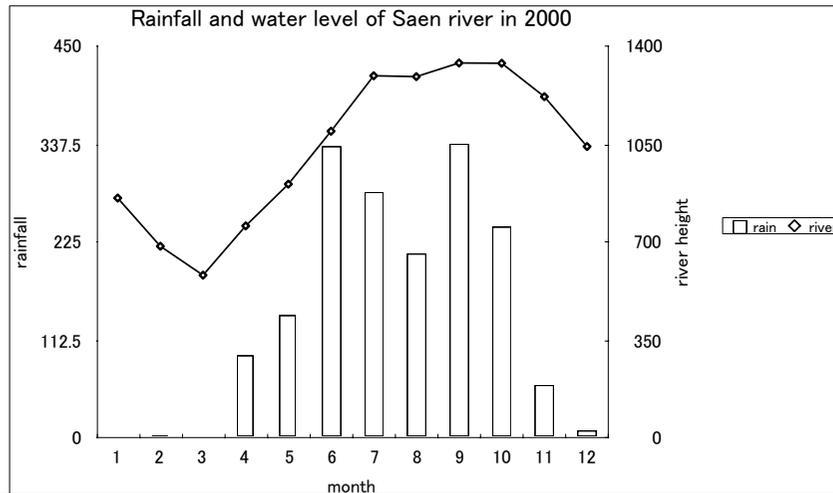


- You may see paddy fields and rice growing activities in everywhere
- Large scale land holding is rare

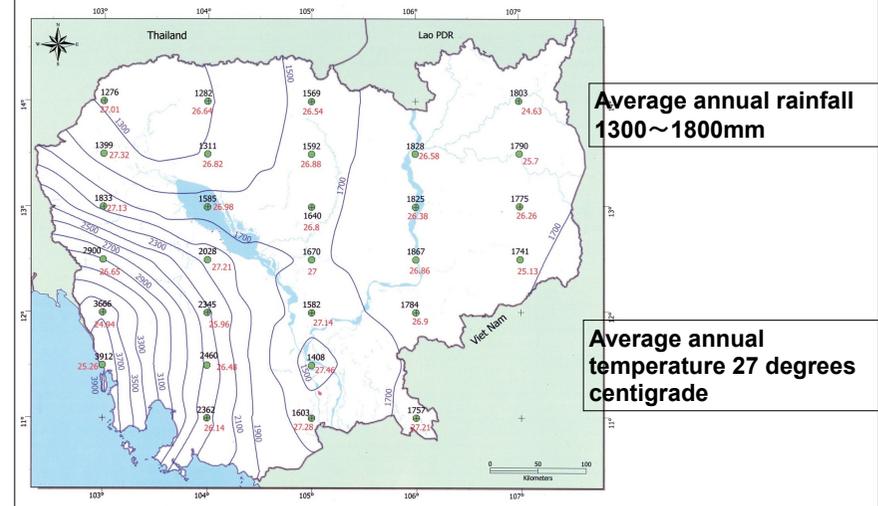
- Farming of commercial crops are observed in some parts of country (e.g. Mekong River banks)



Rainfall



Rainfall and Temperature Patterns



## Administrative structure

- *khaet* (province)- *srok* (district) – *khum* (commune) – *phoum* (village)
- The word *phoum* means villages and/or hamlets (“natural village”).
- *Khum* was established in 1908
  - Commune council (2002~)

## カンボジアの現代史と稲作（別紙1）

1953年：フランスからの独立。以後、シハヌークによる権威主義体制

1970年：クーデターによりシハヌークが失脚。内戦が勃発。

1975~79年：民主カンプチア（ポル・ポト）時代。150万人が虐殺

1980年代：社会主義政権。冷戦構造のなかで国際的に孤立。内戦が継続

1993年：国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）が主導する統一選挙が実施され、カンボジア王国が成立

1998年：ポル・ポト派（クメール・ルージュ）が消滅

2000年代：フン・セン首相が率いる人民党による「開発独裁」の強化

## 1950年代末の雨期稲の標準的な農法 （デルヴェール 2002）

直播田（srae proh. cf. srae srok: 移植田）は、コンポントムとバツタンバンの限られる。浮き稲でも、通常の稲でも。増水のスピードが遅いから

同じ条件下なら、直播の方が、移植よりも収量が少ない。また種子の使用量が多い。他方、人では少なくてすむ

一般に、人口が多いところでは移植。バツタンバンは人口も少ない

モチ品種、浮き稲（不味い）の栽培もある

軽い稲（4~6ヶ月）、中間の稲（6~7.5ヶ月）、重い稲（8~9ヶ月）：「金持ちが重い稲を植え、貧乏人は中間の稲を植える」

## （続き）

品種の多様性：コンポントムのある場所では、晩稲17種、中間稲11種、早生7種という例

調理上の品質：炊きあがりの量、粒の細かいこと、風味

品種の多さは、リスク回避ではプラスだが、商業的には障害。精米時の碎米率の高さ

## (続き)

「里の田」(雨期の移植田)の農作業の周期

クメール正月(4月半ば)の直後から苗床の整地(畦や畝をつくるなど)、肥料(牛糞)の確保

始耕祭: ヴィサーク月の下弦の第四日(※今年は5月12日)

5月半ばに、苗床を準備(耕起+馬鋤+耕起)。耕起は円を描きながら縁から中心へ、あるいは中心から縁へ・・・両方の組み合わせ。種子は、1~4日水につけ、一晩乾かしてから苗床に播種する。早稲は5月上旬、晩稲は6~7月に播種

苗床の準備から約一ヶ月後に、水田の耕起(耕起が1~2回、馬鋤が1~2回)。旋回型と直線型の両方がある

## (続き)

移植: ドライスペルの様子を見ながら、多くは8月中旬から9月に行われる。プチュムバンまでに終わらせる。田植えが遅ければ、生育期間が短くなり、収量が減る。

女性が作業にあたることが多い。苗を引き抜き、束に縛り、30センチほどの長さに上部を切りそろえる。一晩水につけておき、翌朝に植える。宗教儀礼を伴うこともある

40束=1Plong、400束=1Slekと呼ぶ(在来の農地一筆の広さの数は、この束の数をを用いる)

## (続き)

稲刈り: 普通の鎌か、「クメールの鎌」か。後者の場合はまず棒で稲を倒してから作業する

脱穀の方法はいろいろ: 1) 竹ばさみで稲束を挟んでから板に打ち付ける方法、2) 水平に渡された竹を掴んだ人が足で踏みつける方法、3) 牛蹄脱穀・・・

乾燥: ゴザに拡げて乾かし、箕でふるいをかけてから保管する(粃倉OR屋内)

## (続き)

1ヘクタールの水田の作業は、牛2頭を持っている農家で、親と子供が働くとして、約60日かかる

耕起2回=10日間、碎土2回=3日間、苗代整理・播種・管理=8日間、苗取り・苗運び=3日間、田植え=15日間、稲刈り=10日間、脱穀、運搬=8日間

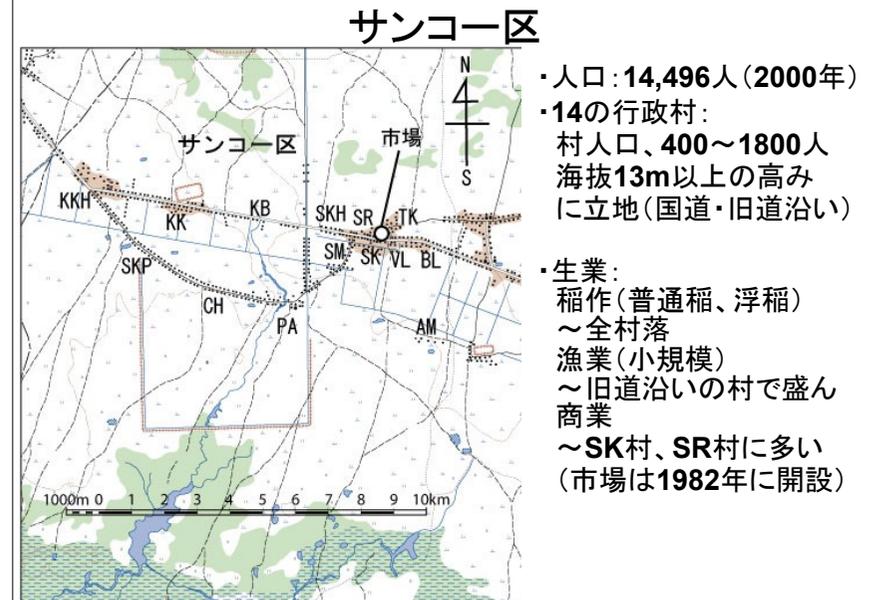
## (続き)

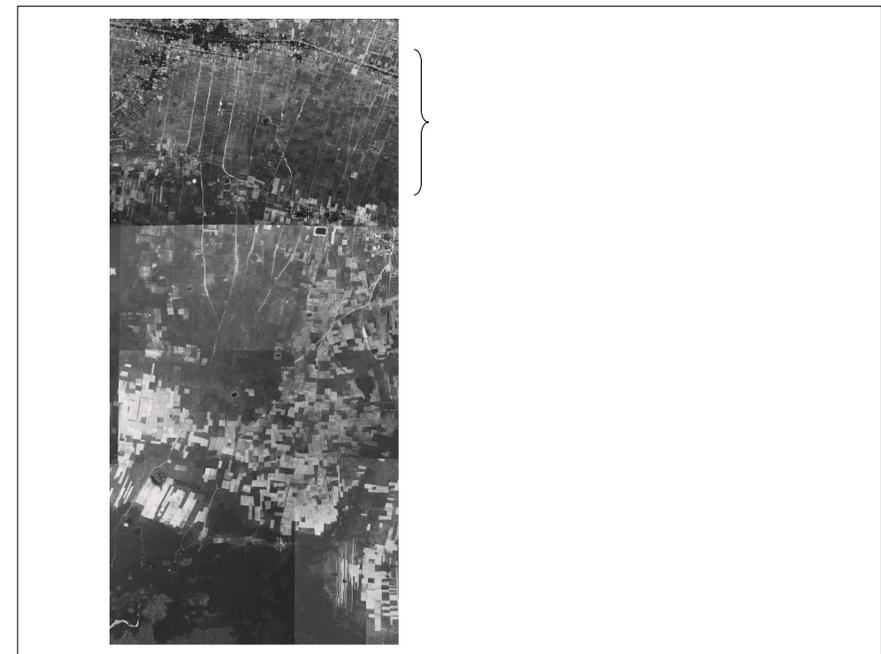
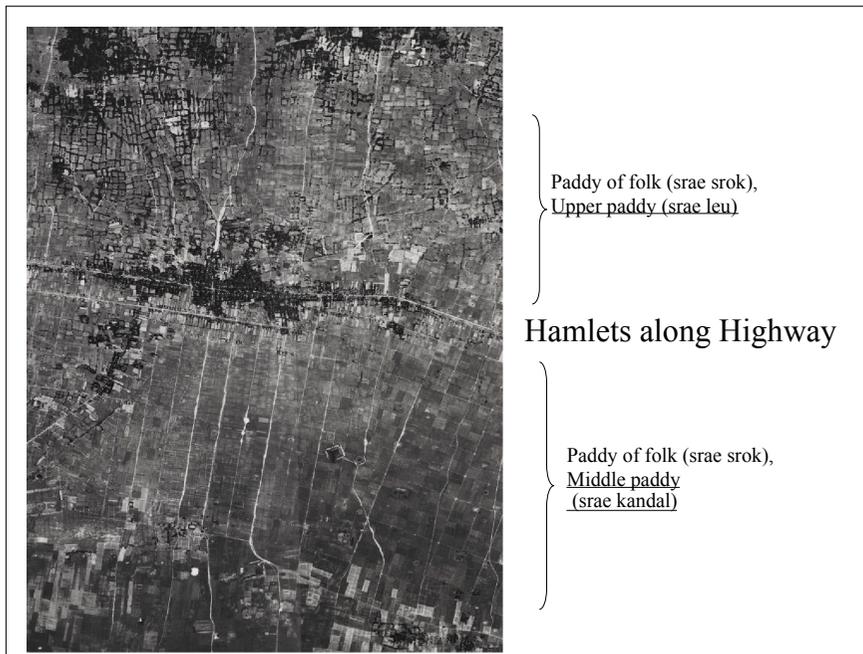
移植ではない、直播きの雨期稲は、重くて生育の遅い稲を栽培する。耕起は早く4月中に始まる。耕起1回、砕土1回で、5～6月に播種する。その後、2回目の耕起によって種子に土をかぶせる。芽を出した後で雑草がはびこる場合は、三回目の耕起をする

収穫は移植稲の後である



- ・サンコー区  
二河川の間
- ・国道開設は  
1910～20  
年
- ・「発展した地  
域」という評  
価
- ・湖水と森林  
の 中間





## 2000～01年の調査地の稲作

牛・水牛の利用

伝統的品種に対して、近代品種が導入を始めていた（浮き稲は1980年代から政府品種）

「結」のような労働交換はなくなっていた。宗教儀礼もなくなっていた

しかし、農業技術そのものは、デルヴェールが報告する1950～60年代のものと大差ない状態だった

## Large scale dry season rice cultivation in flood forest area since 2007



# 次回の発表

ポーサット州バカーン郡を中心とした調査の紹介

伝統的な環境はほぼ同じと想定

2000年代の市場向け稲作の登場（品種、化学肥料）、収量の上昇

出稼ぎ、機械化、小規模金融の浸透

カンボジアの政府の積極的な稲作政策